

# 2016/09/18 丹後ウルトラマラソン 参戦記

岡本 暢

初めての 100km は、絶対に「丹後」と決めていた。そう、今回初めてウルトラマラソンを走った。

現在札幌で生活しているので、ウルトラマラソンの草分け的存在のサロマに出るのが、経済的にも色々な面でも負担は軽いだろうが、そこは京都人としての地元愛がありますから(笑)

前々日に京都市内の実家へ。前日夕方ツアーバスで現地入り。21 時頃床に付くも、気が高揚しているのかうつらうつら。2 時に起きるつもりが 1 時半にはすっかり目が覚めてしまい、あまり眠れなかった状態で会場へ…。

一時豪雨になるが、スタート直前に雨は上がり、気持ち入れ直して整列。場違いな程前方に並んでしまいやや焦る。

経験の無い長旅ゆえに序盤からこれといったペースをいまいち掴めず。「キロ 6 でサブ 10!」という、初 100km なのに完全に嘗め腐った希望的ペース(笑)はあったが、果たしてそれで行ったところで中盤以降足が保てる根拠はないし、全く自信もない。

結局、周りのペースに合わせてのんびりすることに。

丹後地方に来るのは実に 28 年ぶり。

見るもの聞くもの、懐かしいと感じるよりは初めて目にする感覚。

徐々に薄明るくなる中、景色を観ながらのんびりと走っていたら、20km 通過が 2 時間 15 分。さすがにこいつは遅過ぎるとは思いつつも、やっぱり中盤以降に不安があるのでペースは上げられない。楽しめばいいや。30km、3 時間 18 分。

場所は全く覚えていないのだが、前方に大きな「がんばれ-KTC」の看板が見えた。

「おおっ!？」と、あつかましくも心ときめく。が、KTC の右側には「奥野さん」の文字…。

そやなあ…そりゃそやろなあ…俺の応援してくれる人なんかおる訳ないやろけど、けど、岡本もここにいるよ!

といじけ倒していたら、気持ちが通じたのかその場におられた女性二人から「頑張って下さいね!」とエールを貰う。素直に喜ぶ(笑)

モチベーションを高い状態で保てていたからなのか、スローペースだからなのか、ここまで疲れは全く感じなかった。フルの距離を超えて 50km 通過が 5 時間 18 分。さあ、後半戦だ。

先の七竜峠は二度とも淡々と越えて来られた。だけどこの先の碓高原に対して、闘いを挑む前から臆病になっている自分を感じる。

案の定、登り初めると足が止まる。得意な上りもさすがに走り続けられない。走っては歩き、また走る。幾度も繰り返してようやく碓高原のエイドへ。預けておいた荷物の中からショーツを補充して先を



急ぐ。少し遅れ過ぎたな…70km を 7 時間 38 分で通過。

下りは大の苦手だ。身体の力を抜いて、重力に身を任せて颯爽と…駆け降りたいところだが、さすがにアップダウンのあるコースを 70km 以上走って来ている。

着地の衝撃に…前ハムが耐えられない。

非効率な後加重。ブレーキ効かせた状態のままで、ビリビリと悲鳴を上げる前ハムをバチバチ手の平で叩きながら駆け降りる。

つづら折りの坂を駆け下りながら、意識をそらそうと終盤のレースプランを組み立てる。ここからビルドアップ出来ればなんとか 10 時間半以内には食い込めるかもしれない。

最初は完走出来ればいい。タイムなんて気にしないとっていたのに、旅の終わりが見えてくると人間欲が出てくる。だけど今のこのどうしようもない位遅いペースを引き上げることなんて出来やしないけど。

息絶え絶えで下り切り、フラットなコースに出てからようやく少しは自分のピッチに立て直す。90km 通過、9 時間 36 分。

スタート前、現実のタイムは抜きにしてラスト 10km は「ぶっちぎってやる!」と思っていた。

だけど、残り 10km となり、「いざっ!」と指令を送ってみても…うんともすんとも言わず。

ここで踏ん張れば、10 時間半は切れるぞ!と、はっぱをかけるも身体は沈黙を貫き通す。とてもじゃないけど、残りをキロ 5 で走り切る足は残っていなかった。

激しく降り始めた雨の中、ラスト 1km の標識が見えた。

今シーズンはずっと故障続き。

万全のコンディションでスタートし、笑顔でフィニッシュ出来たレースは一度もなかった。身体が駄目なのは勿論だが、心はもっと弛んでいる。そんな現状を振り払いたい一心で、ここは死ぬ気で走り続けた。

「なんやねん! まだ体力余っとるやんっ!」と自ら突っ込みたくなる程の快走…この日の最速ラップも記録(笑)

フィニッシュは 10 時間 39 分。

初の 100km が終わりました。

今回、KTC のトライスイーツで走りました。

宿院さんから、「完走はチームウェアのお蔭だね」と言われましたが全くその通りで、モチベーションを保ち続けられたのはチームウェアのお蔭です。

ウェアのお蔭で、何人かの方にお声掛け頂きましたが、残念ながらクラブ関係の方はおられず。ただ、聞くとところによると、コース上様々な地点でクラブの方々が応援に出られていたとのこと。「がんばれー!」と沿道から声援頂いた方の中に、KTC 関係の方がおられたかもしれません。KTC ジャージで走っていたのは僕です。岡本です。愛想なくてごめんなさい。

普段から KTC の練習会に顔を出せる環境ではないのが致命的ですが、どこでも KTC のクラブ員として恥ずかしくないレースをせなあかんあ…と思いました。

丹後、また帰って来ます! KTC の練習会も出たいです! …遠いけど(涙)

